

1. 自己評価及び外部評価結果

作成日 平成22年 5月 20日

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	第4691200200号
法人名	社会福祉法人 たちばな会
事業所名	グループホーム福山の里
所在地	鹿児島県霧島市福山町福山775-2 (電話)0995-54-7070
自己評価作成日	平成22年4月1日

事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kagoshima-kaigonet.com
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人NPOさつま
所在地	鹿児島県鹿児島市下荒田2丁目48番13号
訪問調査日	平成22年4月30日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

前方には錦江湾と桜島、後方には山々、周りにはみかん畑などがあり自然豊かな環境である。
また、隣には病院があり、緊急時の対応が可能である。
近隣の方々が入居されているため入居者や家族、職員は顔馴染みが多く、希望者は週に数回同法人内のデイサービスをそのまま継続して利用してもらったり、墓参りに行ったりするなどして、入居前の生活リズムを少しでも崩さないようにしている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

国道より少し高台の閑静な住宅街に位置し、眺望と自然環境に恵まれたグループホームである。ホーム裏手の緑豊かな山々は眺めるだけでも四季を感じることができ、眼下には錦江湾と雄大な桜島を望むことができる。敷地内に美術館、病院、障害者施設、デイサービスセンター、居宅介護支援事業所なども併設されており、緊急時の対応や災害時の協力関係が構築されている。託児所もあり子どもたちはときには利用者との交流に一役かっている。
安全対策としてホーム内の床は全てじゅうたんが敷かれ、リビングは畳敷きにして転倒の際の事故防止につなげている。
また、地元の利用者が多く、なじみの人や場との関係継続と在宅と同じような生活の維持ができるように支援に努め、地域の方々と気軽に交流できるグループホームを目指している。交流の一つに中学校の卒業式に出席してもらい卒業生一人ひとりに利用者から花束贈呈を行ったり、それぞれの出身地区の運動会に参加してなじみの関係が途切れないように支援している。在宅での生活の維持支援として晩酌が日課の利用者や入居前からのかかりつけ医の受診支援など行っている。
開設して丸2年が経ち、今後地域密着型サービスとして更に地域に根ざしたグループホームを目指して日々取り組んでいる。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
. 理念に基づく運営					
1	1	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員はその理念を共有して実践につなげている	玄関に理念を掲げその思いを共有できるように心がけている。今月より職員会議で復唱する予定。	理念は開設時に管理者が作成した。職員には入職時に理念について話をしている。	今年度は基本理念を基に職員全員で年間の目標を定め、理念の共有と実践につなげるように取り組みに期待したい。
2	2	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地元の小中学校の運動会に参加したり小学校の水泳大会の応援や中学校の卒業式に参列している。各地区の運動会はその出身地区毎に入居者が参加している。	地元中学校の卒業式に出席して花束贈呈の機会を作ってもらったり、利用者の出身地区の運動会に参加して積極的に交流に努めている。中学生の職場体験学習の受け入れや法人内の託児所の子ども達との交流もある。	
3		事業所の力を生かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて生かしている	公民館などで行われる認知症サポーター養成講座等で認知症の方に対する対応や認知症の方の思いを介護劇を行って地域の方々に理解してもらうよう努めている。		
4	3	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議には民生委員や老人会長、近隣の方、警察、行政、家族代表等に委員になってもらっており、出された意見は必要があれば法人全体の会議で報告し、サービスの向上に繋がるようにしている。	3ヵ月1回の開催で災害対策の協力依頼や事故報告、ホーム内での困難事例についての意見・助言をもらうなどしてサービス向上に活かしている。中学校の卒業式出席も運営推進会議で提案されて実現している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	4	市町村との連携 市町村担当者と日頃から連携を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	霧島市主催の健康福祉祭りにスタッフとして参加したり、市主催の研修会に参加したりし協力関係を築くようにしている。	霧島市と共同で介護劇を取り入れた認知症サポーター養成講座を開くなど日頃から連携が図られている。	
6	5	身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束は行っていない。出入りに関しては夜間以外は施錠せず、外出される際には職員が付き添うようにし外出の制限はしていない。	日中は玄関の施錠はせず帰宅願望の利用者については職員がさりげなく着いて行き、ときには自宅に連れていくこともある。ホーム内に身体拘束委員会を設けており、勉強会を行い職員は身体拘束をしないケアの実践に取り組んでいる。	
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待について施設内の勉強会を行い認識を高めるようにしている。		
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者が社会福祉士会主催の成年後見人養成講座を受講し、職員勉強会において他職員にも学習してもらった。また、家族にも入居時に説明をし、今後利用を予定している方もいる。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>入居前に重要事項説明書や契約書などを渡し目を通してもらうようにし、入居日まで又は入居日に説明を行っている。後日、疑問点などが出てきた場合にも対応する事を伝えている。</p>		
10	6	<p>運営に関する利用者、家族等意見の反映</p> <p>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>昨年は介護相談員に3回訪問してもらい、入居者の要望や相談員が感じた事を聞いてもらっている。その要望を聞き、行える事は反映させている。</p>	<p>家族からは利用料支払いや来訪時に状況報告や意見・要望を聞くようにしている。介護相談員をかいして利用者の意見・要望を聞くこともあり、利用者より「1日の日課がわからない」との意見があり、スケジュール表を作成して居室に貼るなどし利用者の満足に繋げている。</p>	
11	7	<p>運営に関する職員意見の反映</p> <p>代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>随時意見交換や提案を聞いているが、特に意見がある場合には、月に1回の職員会議で述べてもらい、それができる範囲で反映していけるよう努めている。</p>	<p>日常の中で管理者は職員から気軽に意見・要望を聞くように努めている。職員定着についてや職員体制についての意見が出て管理者は法人に提案をしている。新しい利用者についても事前に職員に情報を提供して意見をもらっている。</p>	
12		<p>就業環境の整備</p> <p>代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている</p>	<p>職員が就業日に子供が休みの時は、必要に応じて一緒にグループホームで過ごしても構わないというふうになっている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		<p>職員を育てる取り組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>年間計画は立ててはいない。外部研修においては、力量や経験、勤務年数にあった研修に行ってもらおうようにしている。また、介護福祉士の受験を勧めており、その為の介護実技講習を受講する場合にはそれを優先している。</p>		
14		<p>同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>始良伊佐グループホーム協議会において職員交流研修の取り組みを行っており、他事業所からの実習者を受け入れた。今年はこちらから他事業所へ行き実習を行わせてもらう予定である。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		<p>初期に築く本人との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている</p>	<p>入居前に、ご家族と本人に見学してもらうようにしている。行えない場合は職員が訪問し顔馴染みになるようにしている。その際に本人と話しをして要望や思いを少しでも聞き出すようにしている。</p>		
16		<p>初期に築く家族等との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている</p>	<p>入居前に自宅等に訪問して、家族より現状を聞きながら様々な質問、不安事項、要望等について納得されるまで話している。</p>		
17		<p>初期対応の見極めと支援</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>入居前に自宅や他入居先に訪問して、本人や家族と話しをし、思いや要望等を聞くようにしている。またその際他サービスを視野に入れておいた方が良いと思われた際には、サービス別の事業所資料をもとに説明を行っている。</p>		
18		<p>本人と共に過ごし支え合う関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている</p>	<p>入居者と共に地域行事に参加したり、季節行事に関しては入居者に教わりながら時には叱られながら行っている。時々味付けをみてもらったり、食事介助が必要な人も一緒に食事しながら行う事で介助されているという負い目を少しでも減らそうとしている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		<p>本人と共に支え合う家族との関係</p> <p>職員は、家族を介護される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている</p>	<p>家族に入居前の説明を行う際、グループホームと家族と一緒に本人を見ていく事をお願いしている。面会時に家族が行いたい介護は特別な場合制限していない。また一緒に遠足に行ったりしている。</p>		
20	8	<p>馴染みの人や場との関係継続の支援</p> <p>本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている</p>	<p>家族になるべく面会に来ていただいたり、同法人の通所介護を利用されていた方は継続して利用してもらったり、友人宅へ遊びに行ったり、墓参りをしたりしている。</p>	<p>入居時に家族より馴染みの友人・知人、お墓などを聞いてこれまでの関係が途切れないように支援に努めている。</p>	
21		<p>利用者同士の関係の支援</p> <p>利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている</p>	<p>レクリエーション等グループワーク的な関わりの中でコミュニケーションがとれるようにすると共に日常生活の中で話し等ができるよう心がけている。</p>		
22		<p>関係を断ち切らない取り組み</p> <p>サービス利用 契約 が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている</p>	<p>退居されてからも入院先を訪問したりしている。また現在退居した後も遊びに来てもらっている家族もいる。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。</p>	<p>本人や家族に自宅等での様子や希望を聞き、又は日頃の言動を基に職員で話し合い、情報を共有している。</p>	<p>家族からの情報や日常の言動などで本人本位に検討している。また、職員の気づきを聞いたり、職員会議などで意見をもらっている。</p>	
24		<p>これまでの暮らしの把握</p> <p>一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている</p>	<p>入居前に自宅等に伺い、本人や家族、ケアマネージャー等より生活歴等を聞き出している。また、入居後も本人や家族や知人との会話や付き合いの中で把握に努めている。</p>		
25		<p>暮らしの現状の把握</p> <p>一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている</p>	<p>入居前に情報を収集し、ある程度の現状把握を行い、入居後に日々の生活の中で得た事柄は、職員会議などで情報交換し職員同士が把握できるようにしている。</p>		
26	10	<p>チームでつくる介護計画とモニタリング</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している</p>	<p>定期的にサービス担当者会議を行い家族や職員も加わり検討している。</p>	<p>本人、家族、職員の意見を反映させて本人本位の介護計画を作成している。3ヵ月に1回モニタリングを行い、現状に即した介護計画を作成している。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		<p>個別の記録と実践への反映</p> <p>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている</p>	<p>午前と午後、夜間と状況に応じ、特にエピソードは言葉をそのまま記録している。朝と夕方に職員間での申し送りを行って、情報の伝達共有を行っている。</p>		
28		<p>一人ひとりを支えるための事業所の多機能化</p> <p>本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる</p>	<p>同法人の通所介護に希望があれば通ってもらったり、希望される病院への通院や送迎を、入院した場合は衣類の洗濯や食事介助等を行っている。また外出、宿泊支援を行ったり、本人の状況によりドライブしたり墓参りに行ったりしている。</p>		
29		<p>地域資源との協働</p> <p>一人ひとりの暮らし方を支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している</p>	<p>民生委員や公民会長や派出所の警官に運営推進会議委員になってもらっている事もあり、入居の状況や状態を把握してもらっている。ボランティアポイント制度加入予定である。</p>		
30	11	<p>かかりつけ医の受診支援</p> <p>受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>希望される医療機関に受診して頂き、その際の送迎や付き添いを行っている。</p>	<p>入居後も本人の今までのかかりつけ医や希望の病院へ受診している。受診の際は職員が代行して家族に報告している。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		<p>看護職員との協働</p> <p>介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している</p>	<p>看護職員は勤務していない。その為各かかりつけ医療機関と随時連絡し、適切な受診が行えるようにしている。</p>		
32		<p>入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている</p>	<p>入院する際は医療機関へ情報を提供している。入院中は定期的に様子を見に行き、医療機関から途中経過を聞き、家族との情報の共有に努めている。退院時に関しても情報を提供してもらっている。</p>		
33	12	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人や家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>入居前に看取りに関する説明を本人や家族に行っているが、今迄に看取りは行った入居者はまだいない。</p>	<p>看取りに関する指針を作成しているが支援するにあたって、職員からの意見もあり方針の共有には至っていない。職員が安心して支援できるように職員体制についても法人に要望を出している。</p>	<p>看取りに関する指針を作成しているが事業所の力量や体制が重度化や終末期を支えていけるかを見極め、ホームができる最大限の支援について再度職員全員で話し合っ本人、家族、職員が安心して支援できるように今後の取り組みに期待したい。</p>
34		<p>急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、すべての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている</p>	<p>急変や事故発生時に備えての応急手当や初期対応の随時練習を行っている。事故発生後も対応が適切であったか話し合い、以後の対応に生かすようにしている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	13	<p>災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>避難訓練を行い、安全に避難できるように職員で検討している。現在地域との協力体制は敷いていないが、運営推進会議でも話が出ており、今後協力体制を築いていく予定である。</p>	<p>昼間想定と実際に夜間の避難訓練を行っている。同敷地内の他の施設とは協力体制が構築されており通報システムやスプリンクラーも設置されている。備蓄は法人にて確保している。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	日々のケアの中で職員の言葉や対応に不手際があった場合にはその都度職員がお互い指摘するようにし、必要に応じて職員会議等で話し合い、職員の意識向上を図っている。	一人ひとりのプライバシー保護についてはさりげなく声かけをするなど職員間で確認し、特に排せつについては配慮するように心がけている。ホーム便りの写真掲載についても本人、家族の同意をもらっている。職員採用時の個人情報保護についての誓約書もとっている。	
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	例えば飲物の選択や醤油にするかソースか、ワサビを付けるか等、できるだけその都度意識して選択してもらうようにしている。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者の希望や状態に合わせて各自のペースで起床や就寝、食事ができるようにしている。意向に沿って、入浴や散歩、ドライブに対応している。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるよう支援している	朝、着替える服は本人に聞くようにしている。本人の意思が確認できない方は、本人に似合いそうな服を職員が選んでいる。希望者は、美容室や床屋に行ったり、家族や美容師がグループホーム内で散髪している。		
40	15	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	法人の取り決めで同じ食事を取る事ができないが、昼食は介護されているという負い目を少しでも無くす為、介助しながらでも一緒に食べている。片付け等は本人が行う時には職員の見守りの中行っている。	食器洗いを手伝ってくれるなど力を発揮する場面を作っている。また、晩酌をする利用者もあり、酒の肴の好みを聞いたり、お弁当持参で公園に行くこともある。ファミリーレストランやそば屋などで外食を楽しむなど食事を楽しむことができる支援を行っている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		<p>栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている</p>	<p>水分が不足しがちなのでその方が好んで飲まれるのではと思える飲物をその時の状況に応じて飲んでもらっている。食事量は毎食チェックし変化を見逃さないようにしている。</p>		
42		<p>口腔内の清潔保持</p> <p>口の中の臭いや汚れが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている</p>	<p>起床時と夕食後、昼寝前は口腔ケアを行うよう声かけし、またその方々の状態に合わせ支援を行っている。</p>		
43	16	<p>排泄の自立支援</p> <p>排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている</p>	<p>入居前の排泄パターンや入居後の状態を基に支援を行っている。以前リハビリパンツやオムツであった方も全員ではないが、パンツにパットを使用する形に移行している。</p>	<p>排せつチェック表を作成して個々のパターンを把握できるように努めている。排せつの自立に向けた支援を行うように日々取り組んでいる。</p>	
44		<p>便秘の予防と対応</p> <p>便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる</p>	<p>デイサービスに参加してもらったり、簡単な体操やボールを使ったゲームを行っている。季節に応じて排便を促し、好まれる食べ物（例えばさつま芋等）を食べてもらっている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	17	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援している	1週間毎日入れるようにはしているが定期的な朝風呂や夜間入浴は行えていない。タイミングを見て入浴を促す声かけを行っている。時には温泉や足湯に出かけるなどし、気分転換を図りながら無理強いする事無く支援している。	毎日お風呂を楽しむ利用者もいる。また、ときには温泉、足湯に出かけるなど入浴を楽しむことができる支援を行っている。	
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	リビングは畳敷きでありソファがある為日中は各自その時の状態に合わせて居室を含め好きな所で昼寝等をしてもらっている。夜間落ち着かれない時は飲物を飲んでもらったり、職員のいるリビングでしばらく過ごしてもらったり、時にはリビングに休んでもらう様にしている。		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	記録簿に薬情報書を添付し、いつでも目に入るようにしている。内服はその方に合わせた支援を行って、服用できたかの確認を行っている。		
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活暦や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	来客の出迎えや洗濯物たたみ等生活歴や力量に応じ、その時の状況に応じてお願いしている。夕食では嗜好に応じて晩酌をしてもらっている。ソバや餅、梅干し等の季節食を作る際は入居者に指導してもらっている。		
49	18	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるように支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩は希望に応じて行っている。1～2ヶ月に1回程度の遠足やその都度希望に応じて自宅までのドライブや外泊支援、墓参り、地元のイベントに出かけている。今後各自の希望を更に聞き出し、希望される方には家族の協力の元に泊りがけの遠出も行っていく予定である。	日常的には散歩やドライブを兼ねて買い物に行ったりしている。気候のいい時期は一日遠足を毎月計画している。外出のレクリエーションとして花見、知覧特攻基地見学、道の駅、ソーメン流し、初詣など出来るだけ戸外に出かけられるように支援している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		<p>お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>家族が了解された入居者は少額ではあるが金銭を所持してもらっている。</p>		
51		<p>電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している</p>	<p>手紙については殆どの方が希望はなく、無理に勧めてもいない。電話は希望があれば制限せずに支援を行っている。</p>		
52	19	<p>居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱を招くような刺激（音、光、色、広さ、湿度など）がないように配慮し、生活感や季節感を取り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>家族などの意見を取り入れたたり、持ってきてもらったその季節季節の花を飾ったりしている。五感を刺激しないように、なるべくうるさくない様にしており、例えば落ち着けるような音楽を流したり、茶碗もなるべく静かに洗ったりしている。</p>	<p>広いリビングからは眼下に錦江湾と桜島が望め、芝生の庭に出られるので開放感があり、利用者は好みの場所でゆっくりとした時間を過ごしている。また、家庭と同じように素足で過ごしてもらうためリビングには畳が敷かれ、廊下にはじゅうたんを敷き、あたたかさや落ち着いた雰囲気や転倒の際の事故防止にもなっている。</p>	
53		<p>共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>リビングや廊下に椅子やソファを置き各自、その時の好きな場所でくつろげる様になっている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	20	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	持ち込む物に特に制限はせず、写真や小物等見慣れた物や茶碗や箸等使い慣れた物を数多く持ってきてもらうようお願いしている。	広い居室はクローゼットが設置されてテレビやこたつ、じゅうたんなどで居心地良く過ごせるように工夫している。また、ラジオや時計、椅子など個々になじみの物品が持ち込まれている。	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	椅子をなるべく多く設置する事で手摺代わりにし、リビングは畳、廊下や居室は絨毯にし、どこで過ごしても安全で且つ例えば這って移動されても違和感がないようにしている。		

アウトカム項目

56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23,24,25)	1	ほぼ全ての利用者の
		2	利用者の2/3くらいの
		3	利用者の1/3くらいの
		4	ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18,38)	1	毎日ある
		2	数日に1回程度ある
		3	たまにある
		4	ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	1	ほぼ全ての利用者が
		2	利用者の2/3くらいが
		3	利用者の1/3くらいが
		4	ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿が見られている。 (参考項目：36,37)	1	ほぼ全ての利用者が
		2	利用者の2/3くらいが
		3	利用者の1/3くらいが
		4	ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	1	ほぼ全ての利用者が
		2	利用者の2/3くらいが
		3	利用者の1/3くらいが
		4	ほとんどいない

鹿児島県 グループホーム福山の里

61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30,31)	1	ほぼ全ての利用者が
		2	利用者の2/3くらいが
		3	利用者の1/3くらいが
		4	ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により安心して暮らせている。 (参考項目：28)	1	ほぼ全ての利用者が
		2	利用者の2/3くらいが
		3	利用者の1/3くらいが
		4	ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9,10,19)	1	ほぼ全ての家族と
		2	家族の2/3くらいと
		3	家族の1/3くらいと
		4	ほとんどできていない

鹿児島県 グループホーム福山の里

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9,10,19)	1 ほぼ毎日のように
		2 数日に1回程度ある
		3 たまに
		4 ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	1 大いに増えている
		2 少しずつ増えている
		3 あまり増えていない
		4 全くいない
66	職員は、生き生きと働いている。 (参考項目：11,12)	1 ほぼ全ての職員が
		2 職員の2/3くらいが
		3 職員の1/3くらいが
		4 ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	1 ほぼ全ての利用者が
		2 利用者の2/3くらいが
		3 利用者の1/3くらいが
		4 ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	1 ほぼ全ての家族等が
		2 家族等の2/3くらいが
		3 家族等の1/3くらいが
		4 ほとんどいない